

第42期（2020年3月期） 決算説明会資料

2020年5月13日

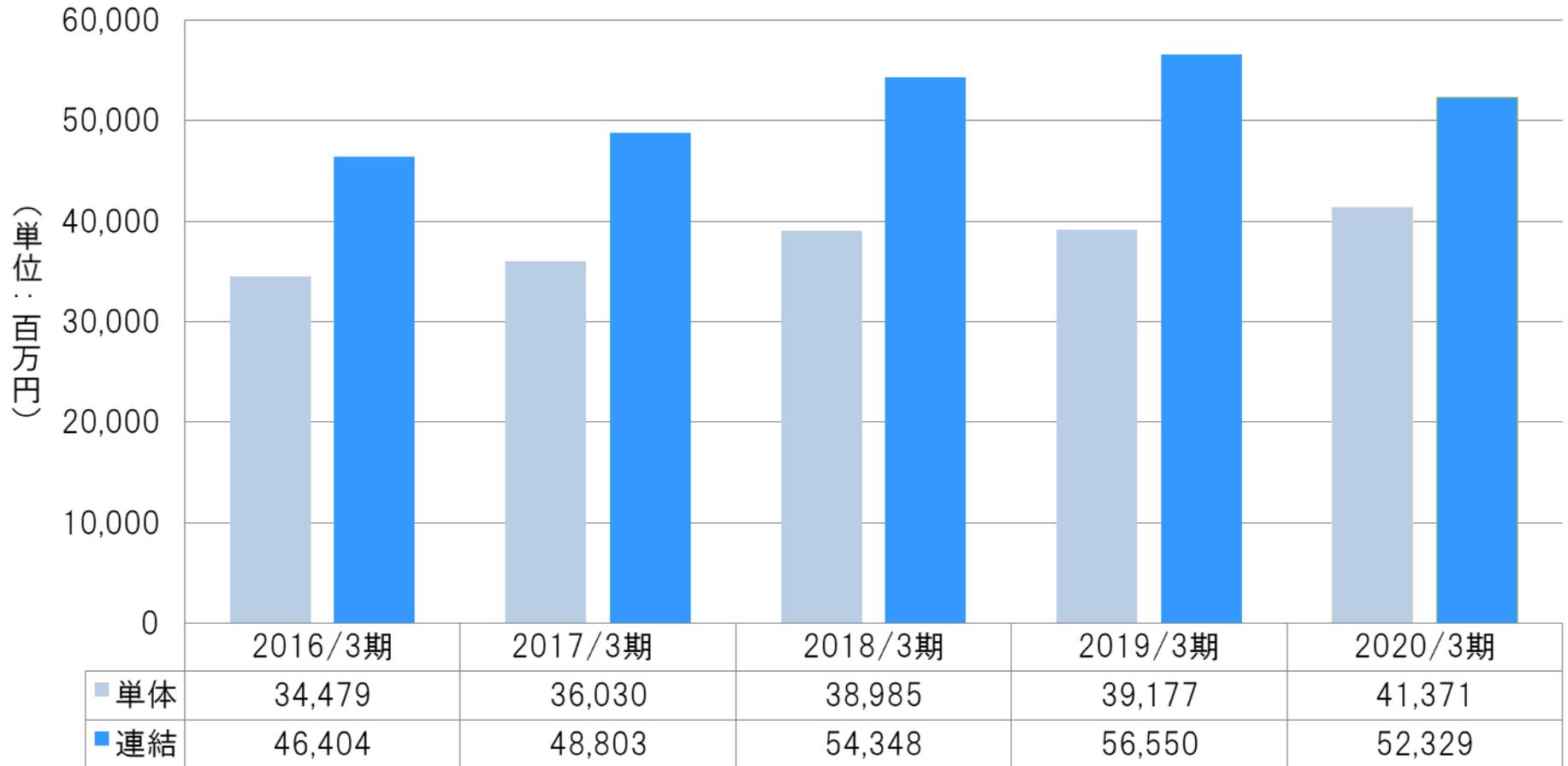


アリアケジャパン株式会社

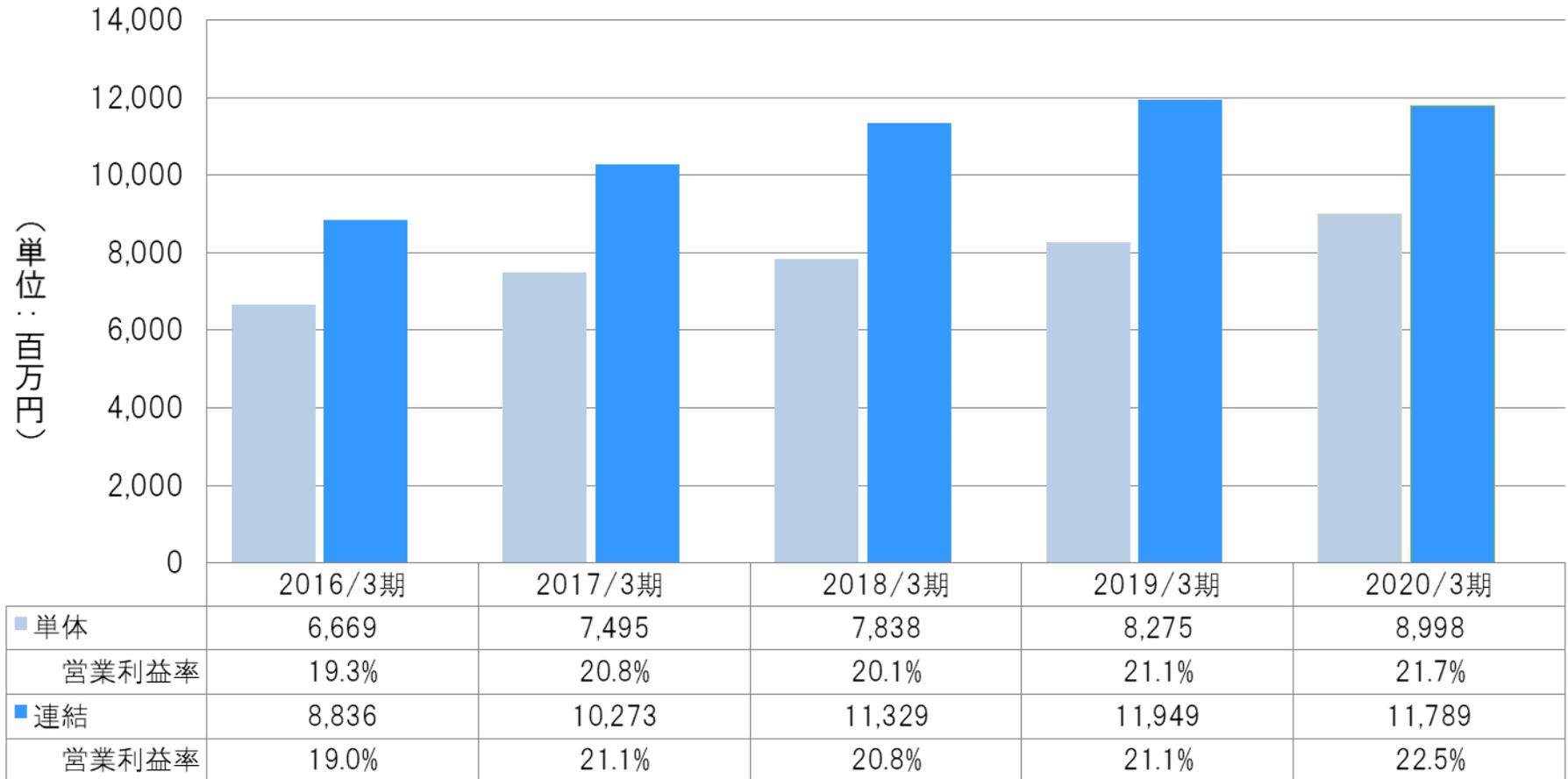
目 次

- | | |
|-----------------------------------|------------------------|
| 02. 売上高の推移（単体・連結） | 10. 売上高（対前年実績） |
| 03. 営業利益の推移（単体・連結） | 11. 営業利益（対前年実績） |
| 04. 経常利益の推移（単体・連結） | 12. 地域別概要 |
| 05. 親会社株主に帰属する 当期純利益の推移（単体・連結） | 13. アリアケグループの「世界7極体制」 |
| 06. 前期比較 単体事業の概要 | 14. 設備投資の推移（連結・単体） |
| 07. // （利益変動要因） | 15. 減価償却費の推移（連結・単体） |
| 08. 計画比較 単体事業の概要 | 16. 2021年3月期（第43期）業績予想 |
| 09. // （利益変動要因） | 17. 新型コロナウイルス感染症の影響 |
| | 18. 持続可能な社会への貢献 |

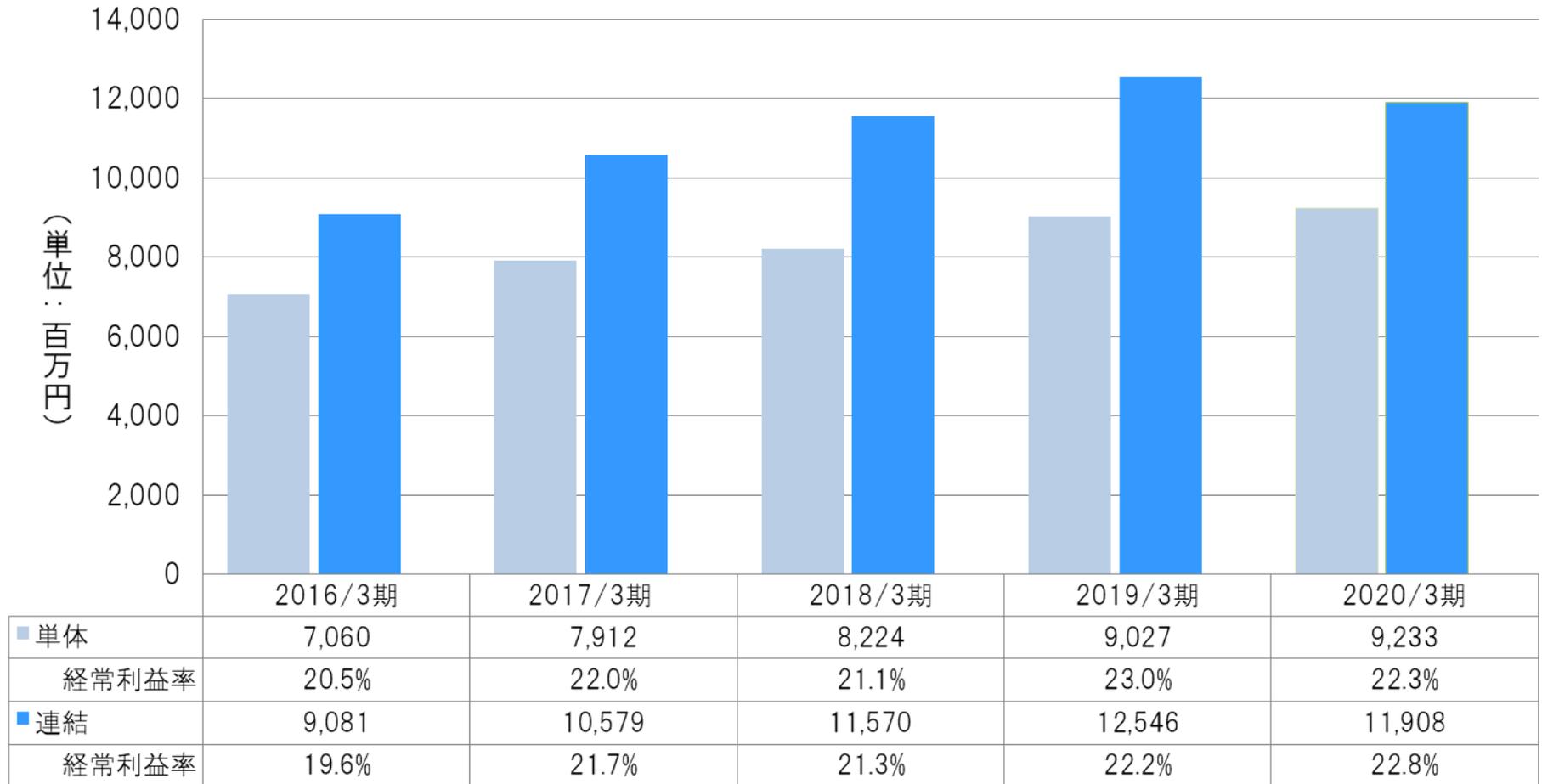
売上高推移（単体・連結）



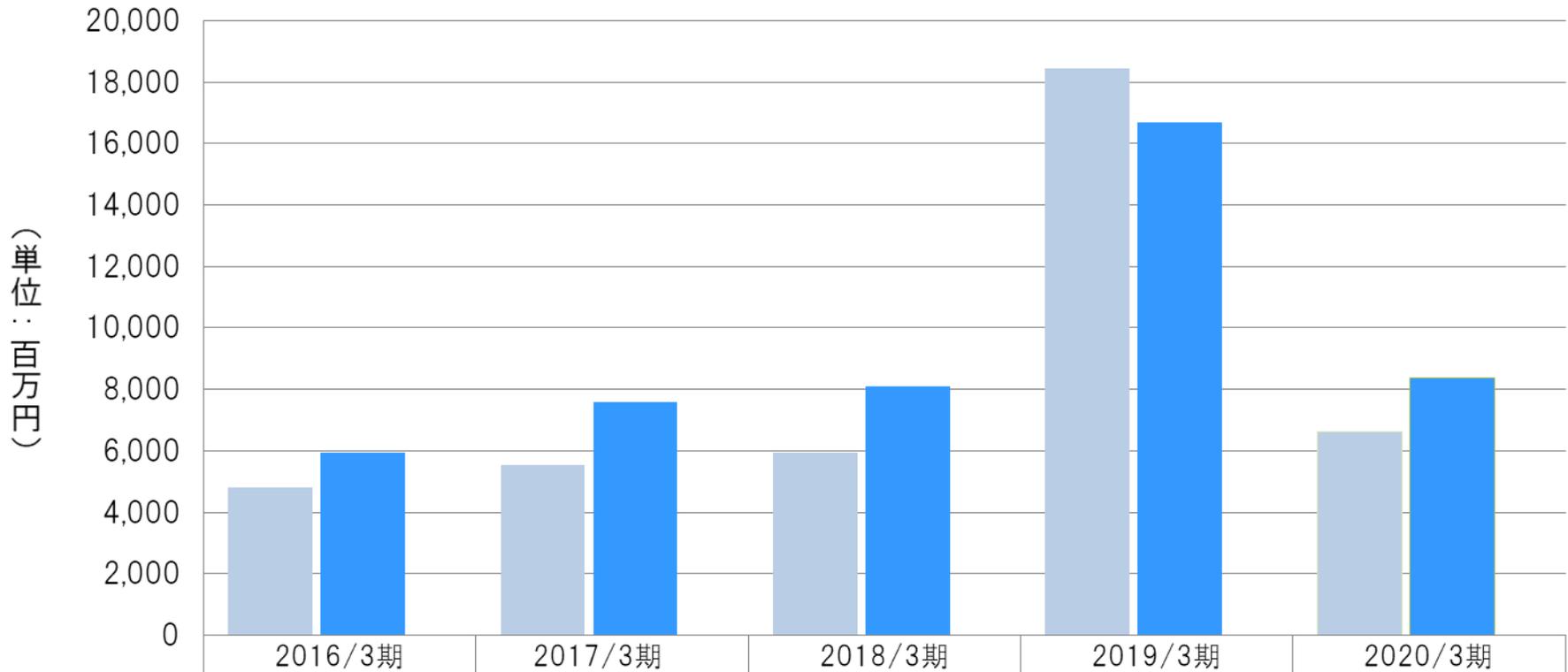
営業利益の推移（単体・連結）



経常利益の推移（単体・連結）



親会社株主に帰属する当期純利益の推移（単体・連結）



| | | | | | |
|--------|-------|-------|-------|--------|-------|
| ■ 単体 | 4,798 | 5,541 | 5,926 | 18,438 | 6,633 |
| 当期純利益率 | 13.9% | 15.4% | 15.2% | 47.1% | 16.0% |
| ■ 連結 | 5,939 | 7,585 | 8,099 | 16,677 | 8,375 |
| 当期純利益率 | 12.8% | 15.5% | 14.9% | 29.5% | 16.0% |

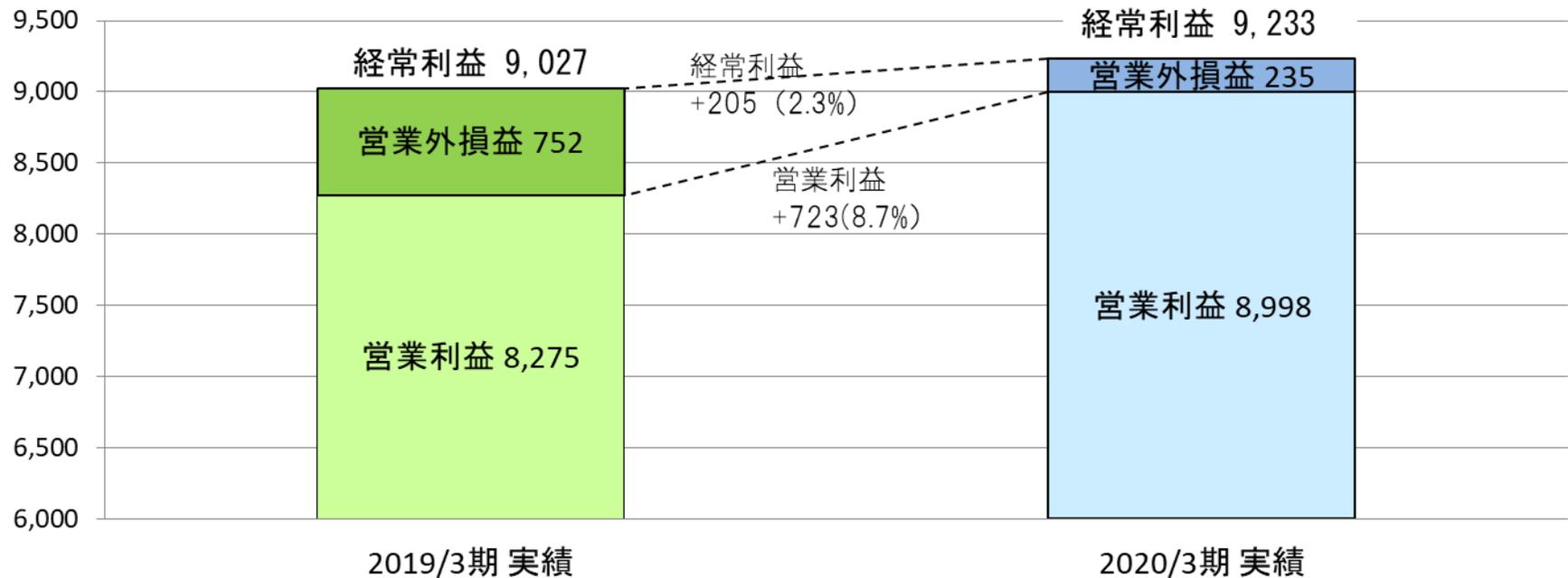
【前期比較】 単体業績の概要

■売上高

単体の売上高は41,371百万円、前年同期比2,194百万円増(5.6%増)となりました。

■利益

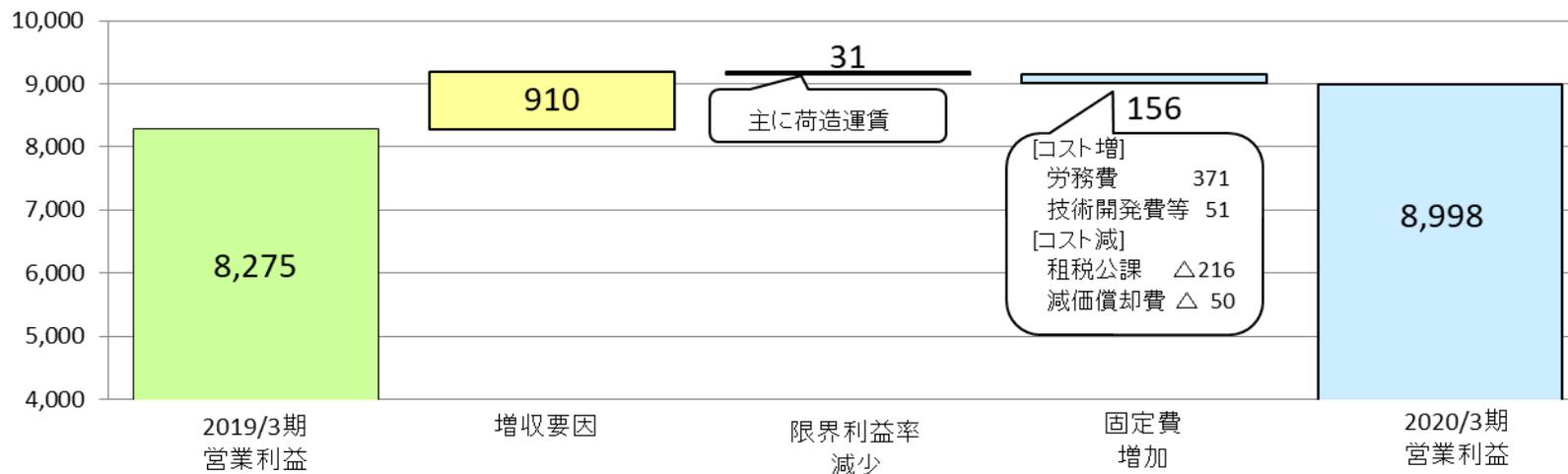
(単位：百万円)



【前期比較】 単体業績の概要〔利益変動要因〕

■ 営業利益 8,998百万円 前年比723百万円(8.7%)増加

(単位：百万円)



■ 経常利益 9,233百万円 前年比205百万円(2.3%)増加

(単位：百万円)

| | | |
|------|-----------|-------|
| 増加要因 | 営業利益増加 | 723 |
| | 受取利息他 | 5 |
| 減少要因 | デリバティブ評価益 | △ 350 |
| | 為替差損益 | △ 158 |
| | 受取利息他 | △ 15 |
| 合計 | | 205 |

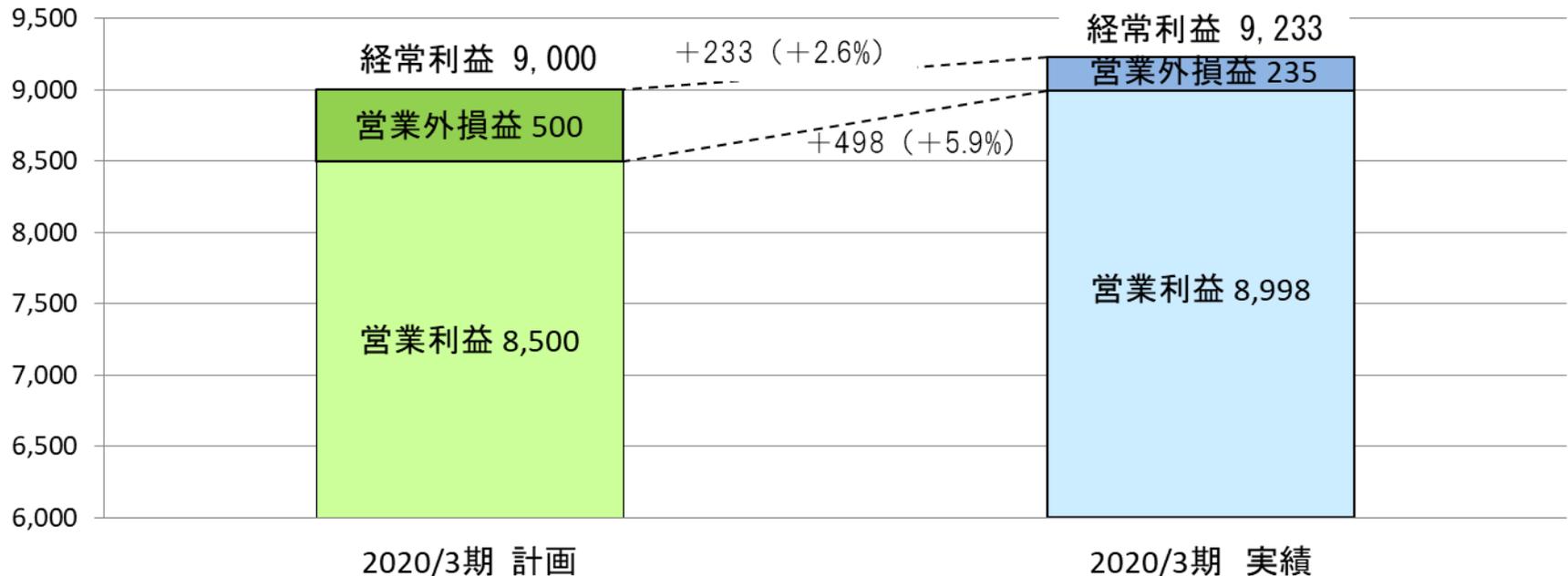
【計画比較】 単体業績の概要

■売上高

単体の売上高は41,371百万円、計画比1,172百万円増(2.9%増)となりました。

■利益

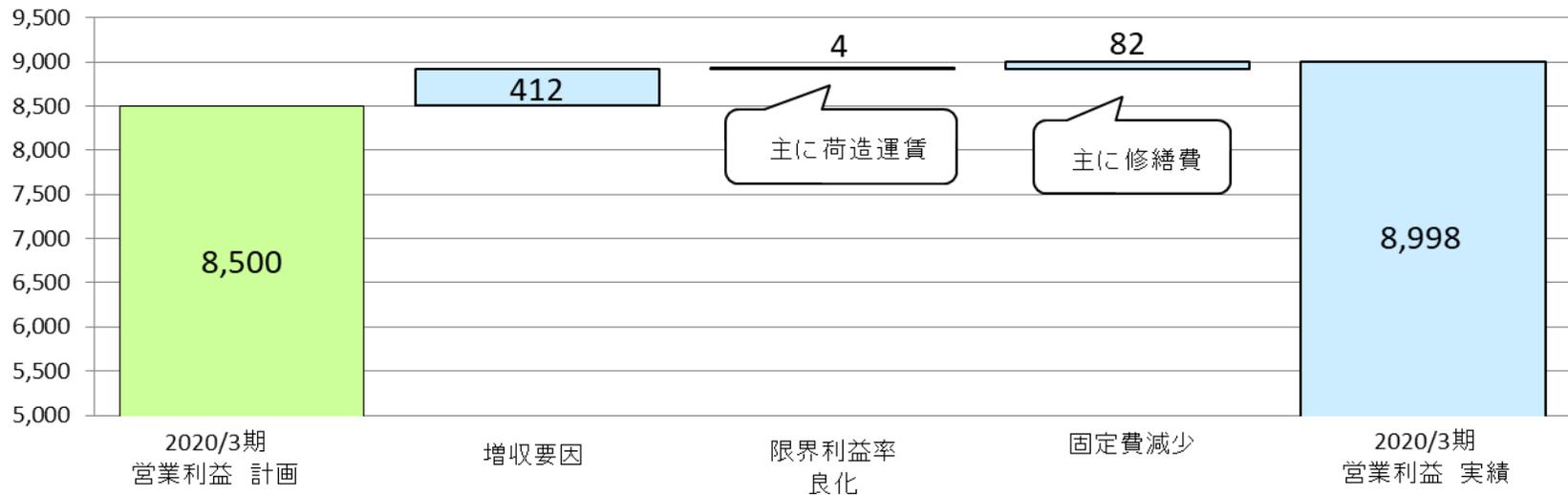
(単位：百万円)



【計画比較】 単体業績の概要〔利益変動要因〕

■ 営業利益 8,998百万円 計画比498百万円(5.9%)増加

(単位：百万円)



■ 経常利益 9,233百万円 計画比233百万円(+2.6%)

(単位：百万円)

| | | |
|------|--------|-------|
| 増加要因 | 営業利益増加 | 498 |
| | 受取配当金他 | 21 |
| 減少要因 | 為替損益 | △ 224 |
| | 受取利息他 | △ 62 |
| | 合計 | 233 |

売上高（前期・計画比較）

※子会社は連結調整後

（単位：億円）

| | 2020/3期 (A) | 2019/3期 (B) | 増減 | | |
|-------------|----------------|----------------|--------|--------|--------|
| | | | (A-B) | % | 為替中立 |
| アリアケジャパン | 413.7 | 391.8 | 21.9 | 5.6% | - |
| 子会社 計 ※ | 109.6 | 173.7 | △ 64.2 | -36.9% | -35.4% |
| 米 国 | 0.0 | 68.5 | △ 68.5 | - | - |
| ア ジ ア | 69.6 | 67.1 | 2.5 | 3.7% | 5.8% |
| 欧 州 | 36.7 | 35.0 | 1.8 | 5.1% | 8.9% |
| 日 本 | 3.3 | 3.2 | 0.0 | 0.9% | - |
| 連結 | 523.3 | 565.5 | △ 42.2 | -7.5% | -7.0% |
| 連結(除く米国) | 523.3 | 497.0 | 26.3 | 5.3% | 5.8% |

| 計画 | |
|----------------|-------------|
| 2020/3期 (C) | 増減 (A-C) |
| 402.0 | 11.7 |
| 118.0 | △ 8.4 |
| 0.0 | 0.0 |
| 78.0 | △ 8.4 |
| 37.0 | △ 0.3 |
| 3.0 | 0.3 |
| 520.0 | 3.3 |

| | | | | |
|------|--------|--------|-------|--------|
| USD | 109.56 | 110.99 | -1.43 | 110.00 |
| EUR | 122.54 | 127.00 | -4.46 | 125.00 |
| 人民币 | 15.67 | 16.16 | -0.49 | 16.50 |
| 台湾ドル | 3.64 | 3.60 | 0.04 | 3.66 |
| ルピア | 0.0079 | 0.0077 | 0.00 | 0.0078 |

営業利益（前期・計画比較）

※子会社は連結調整後

（単位：億円）

| | 2020/3期 (A) | 2019/3期 (B) | 増 減 (A-B) | % | |
|----------|----------------|----------------|--------------|--------|--------|
| | | | | % | 為替中立 |
| アリアケジャパン | 90.0 | 82.8 | 7.2 | 8.7% | — |
| 子会社 計 ※ | 27.9 | 36.7 | △ 8.8 | -24.0% | -22.2% |
| 米 国 | 1.0 | 14.7 | △ 13.7 | -93.1% | -93.0% |
| ア ジ ア | 17.8 | 16.5 | 1.3 | 7.9% | 10.0% |
| 欧 州 | 8.9 | 5.3 | 3.6 | 67.1% | 73.1% |
| 日 本 | 0.2 | 0.3 | △ 0.0 | -15.1% | — |
| 連結 | 117.9 | 119.5 | △ 1.6 | -1.3% | -0.8% |
| 連結(除く米国) | 116.9 | 104.8 | 12.1 | 11.5% | 12.1% |

| 計画 | |
|----------------|-------------|
| 2020/3期 (C) | 増減 (A-C) |
| 85.0 | 5.0 |
| 26.0 | 1.9 |
| 0.0 | 1.0 |
| 19.0 | △ 1.2 |
| 7.0 | 1.9 |
| 0.0 | 0.2 |
| 111.0 | 6.9 |

地域別概要

アジア

中国は米中貿易摩擦を背景に国内景気減速の影響を受けましたが増収増益となりました。

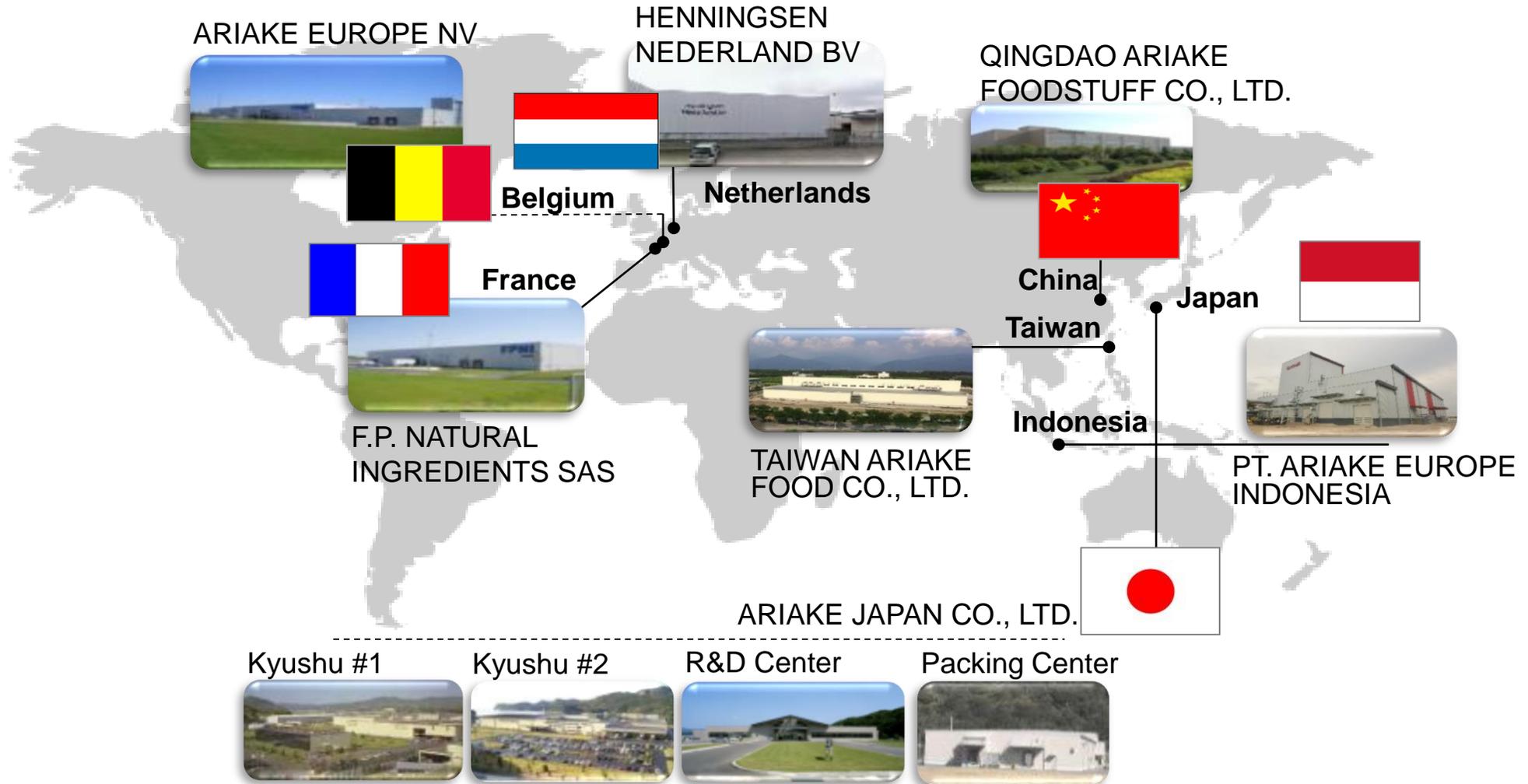
台湾は既存顧客からの受注増により増収増益となりました。

インドネシアは、日本向けの生産・輸出が軌道に乗りました。

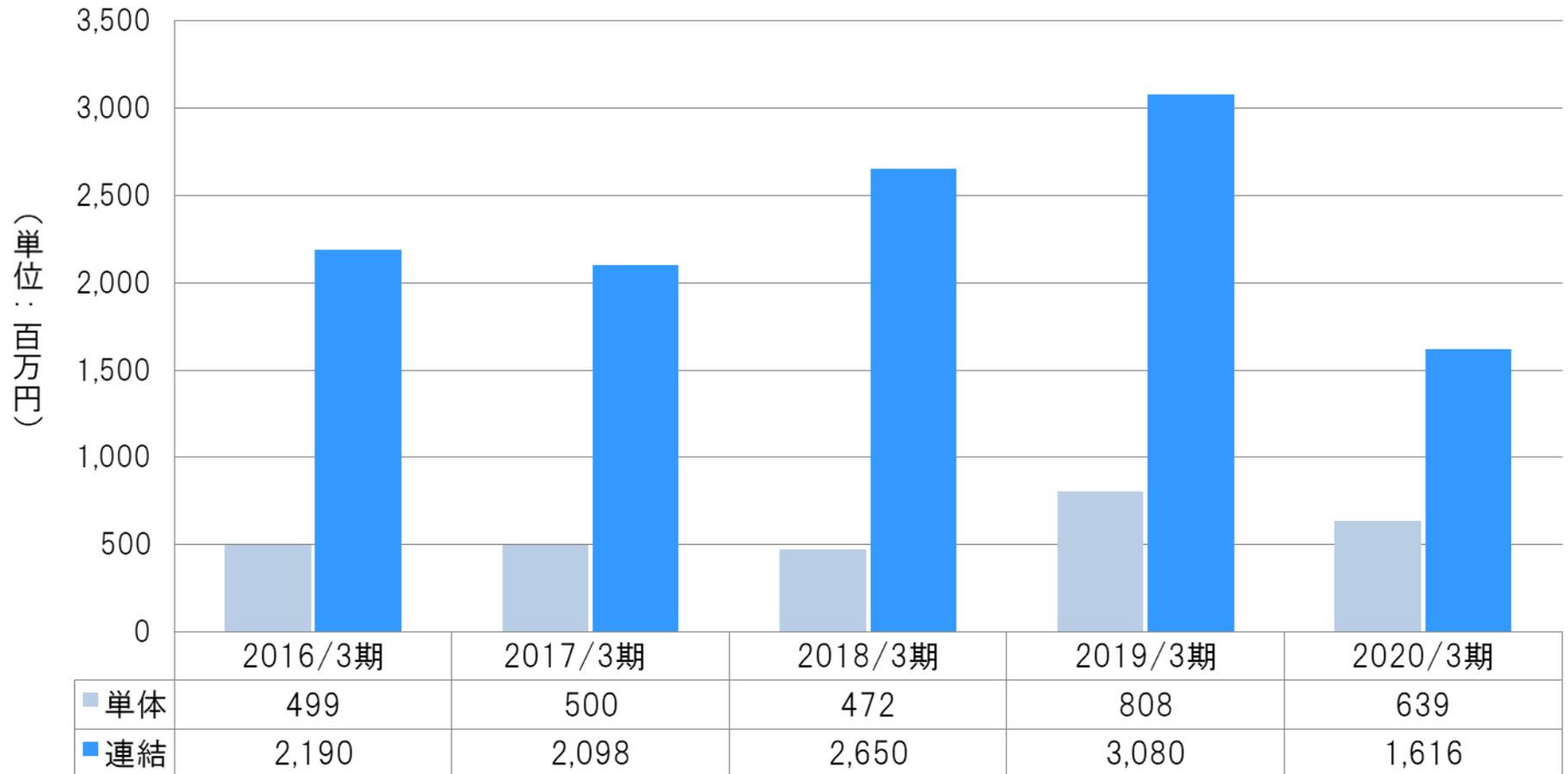
欧州

ベルギー・フランス・オランダの3拠点連携により、欧州圏内の売上を拡販し、増収増益となりました。

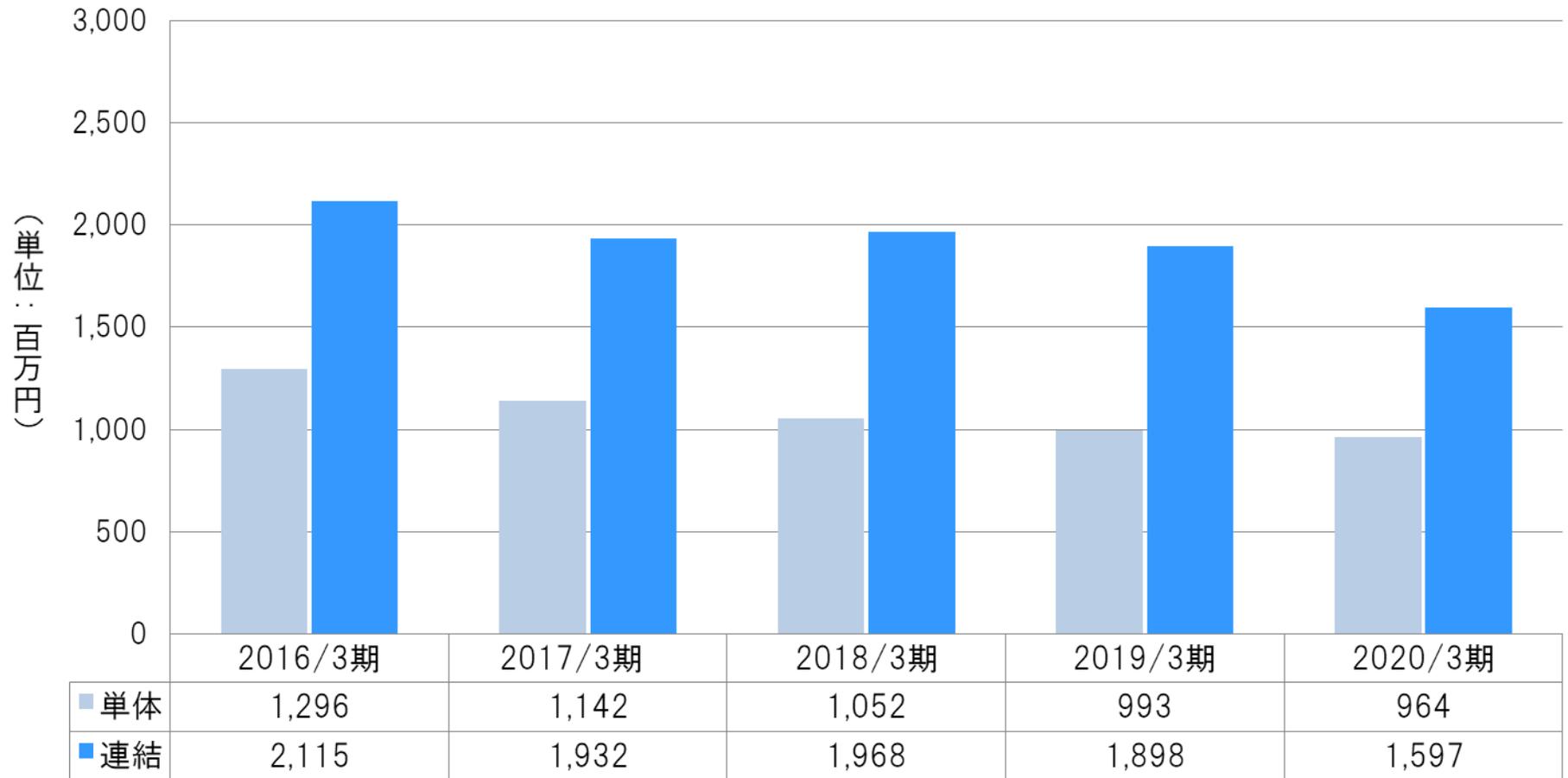
アリアケグループの「世界7極体制」



設備投資の推移（連結・単体）



減価償却費の推移（連結・単体）



2021年3月期（第43期）業績予想

- 国内市場での嗜好の変化を読み取り、新たな製品開発と市場開拓を行い、さらなるシェア・アップを図ってまいります。
- 更なる拡販が期待できる中国および台湾市場での販売強化、また、インドネシアから日本への原料供給と同国市場の販売強化を図ってまいります。
- 欧州圏での開発製品の投入による売上げ強化、および日本への原料供給強化に取り組んでまいります。
- これらの施策を着実に実行し2021年3月期においても成長を目指す計画ですが、新型コロナウイルス感染症が世界規模で拡大している影響により、現段階では合理的な業績予想の算出が困難であるため、未定とさせていただきます。今後、業績への影響を慎重に見極め、合理的な予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

新型コロナウイルス感染症の影響

単体

アリアケジャパン

- ◆政府、自治体の指導およびBCPに基づき、九州工場、営業所（国内6ヶ所）及び本社において、感染防止策を徹底した上で、通常の生産・開発・営業活動に注力。
- ◆国内・海外出張を自粛し、電話・テレビ会議の積極活用

海外

中国・台湾・
インドネシア・
ベルギー・フラ
ンス・オランダ

- ◆中国は2020年2月10日より稼働再開し操業中（2020年1月24日～2月9日まで稼働停止）
- ◆中国以外は年初来通常どおり操業中
- ◆いずれも原材料調達において特段問題なし
- ◆一部の顧客に新型コロナウイルスの影響が出る一方、一部の顧客の受注増有り。（精査中）

持続可能な社会の構築に一層貢献していきます

持続可能な成長へ

社会のパートナーとして共存

強みのシナジーによる効果

- 高品質・安全・安心な約2,500種類の天然調味料を製造
- 世界に安定供給

社会的利益に寄与するイノベーション

- 新しい価値の提供
- 新しいビジネスモデルの創出

強みを活かした事業展開

<強み1> 高度な生産能力・技術力

- コンピュータ制御
- おいしく、健康的、高品質、安全な食品
- 大量生産
- 安定供給

<強み2>

高度な品質・衛生管理能力

- 数々の高度、国際的な品質・衛生管理認証取得

<強み3>

グローバルな生産体制

- 世界7か国で生産
- グローバルな調達・生産・安定供給

環境・社会との共存関係の発展

<資源の有効活用・循環型社会構築>

- 全工程で環境への配慮
- 主力製品に畜産のガラを有効活用
- 残渣の有効活用
- エネルギーの有効活用
- 温室効果ガス削減
- 廃棄物・排出物の削減

<持続可能な事業基盤の構築>

- 近隣社会の振興
- 就学支援による人材育成

恒常的な社会課題

- 外食・食品産業：天然調味料への需要が増加（要因：少子高齢化、健康志向、人手不足）

突発的事象

- 食の安定供給へのリスク（要因：疫病、自然災害）

本資料は、会社内容をご理解いただくための資料であり、投資勧誘を目的とするものではありません。

本資料に記載されている業績予想（計画）及び、将来の予測につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。予想（計画）にはさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績は異なる場合があります。